

Topics

小児アレルギー疾患について

－食物アレルギーと喘息を中心に－ 小児科 宮下 雄輔

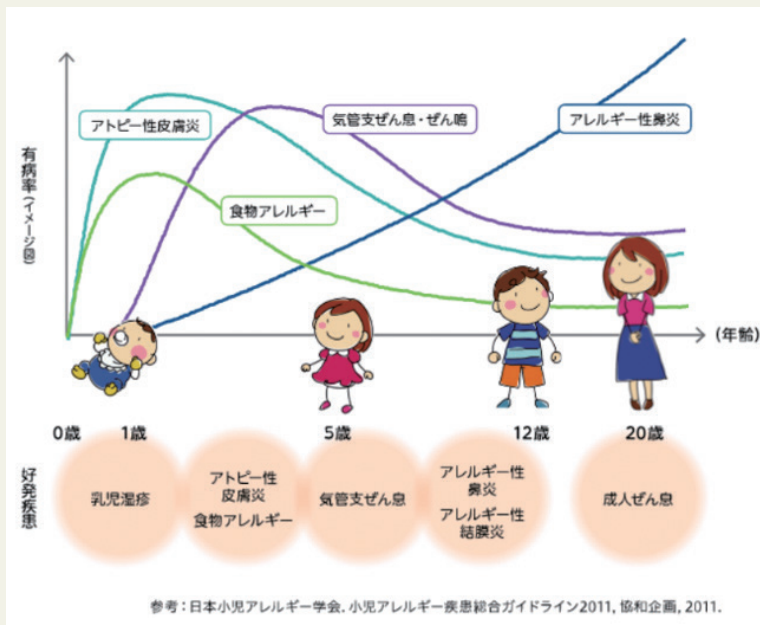


はじめに

皆様、アレルギーマーチという言葉をご存じでしょうか？この言葉は乳幼児期のアトピー性皮膚炎・食物アレルギーから始まり、幼児期の気管支喘息、学童期以降のアレルギー性鼻炎へと移行する現象を行進（マーチ）に例えて呼ばれています。この発症には①遺伝的要因、②環境要因、③免疫システムの過剰応答の3つが関与していると考えられています。

01 食物アレルギーについて

摂取した食物が免疫学的機序を介して蕁麻疹や喘鳴、嘔吐などの症状が起こることを食物アレルギーといいます。最も多いIgE依存型は摂取後30分以内に症状が出現し重症例ではアナフィラキシーをきたします。迅速な対応が行われないと死に至ることもあり、早期診断と適切な指導が重要です。必要時にはエピペン®（2026年からは点鼻液のネフィー®も可能）を処方します（処方登録された医師のみ可）。一方、IgE非依存型では摂取後数時間経ってから症状が出現し、代表例として食物蛋白誘発胃腸炎症候群（FPIES）が知られています。診断や管理方法が異なるため、両者の鑑別は非常に重要になります。



02 喘息について

小児喘息はダニ・ハウスダスト・花粉などへのアレルギーに加えウイルス感染を契機に発症することが多いです。アレルギー性鼻炎は喘息の重要な増悪因子であり、喘息のコントロールのために鼻炎治療も併せて行うことが重要といわれています。さらに小児では胃食道逆流症（GERD）が喘息症状に関与することがあり、臨床経過に応じた評価が必要となります。

おわりに

近年アレルギー疾患を有している人が増えてきており、その対策は我が国で非常に大きな問題となっております。上記のアレルギーマーチの進行は抑えることができ、そのためにはアレルギー疾患の早期介入が重要になります。小児のアレルギー疾患でお困りの症例がございましたらお気軽にご相談ください。アレルギー専門の先生方と連携を取りながら診療していきたいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

当院小児科外来の紹介

当院小児科一般外来は8：30～15：30の受付で行っております。

また特殊外来として、てんかん：火・木、不登校・発達：火・木・金で行っております。

（担当医により曜日が異なります、予めご了承ください）

予約の際は小児科外来へお電話ください。